

中野区教育委員会第5回協議会会議録

開催日時 平成20年2月8日(金) 開会10時01分 閉会10時41分

開催場所 中野区役所教育委員会室

出席委員	中野区教育委員会	委員長	山田 正興
	同	委員長職務代理	高木 明郎
	同	委員	大島 やよい
	同	委員	飛鳥馬 健次
	同	教育長	菅野 泰一
事務局職員	教育委員会事務局次長		竹内 沖司
	教育経営担当課長		小谷松 弘市
	教育改革担当課長		青山 敬一郎
	学校教育担当課長		寺嶋 誠一郎
	指導室長		入野 貴美子
	生涯学習担当参事		村木 誠
	中央図書館長		倉光 美穂子
書記	教育経営分野		松島 和宏
	教育経営分野		渡邊 真理子

傍聴者数 5人

議 事

(報告事項等)

○委員長、委員報告事項

- ・ 2/ 1 特色ある学校作り重点校研究発表会(北中野中学校)について
- ・ 2/ 2 東京都医師会学校医研修会について
- ・ 2/ 6 第一中学校訪問について

○教育長報告事項

- ・ 2/ 4・6 文教委員会について
- ・ 2/ 4 中野区健康危機管理図上訓練について
- ・ 2/ 5 代表校長会について

- ・ 2 / 6 中野昭和小学校・東中野小学校統合委員会報告について
- ・ 2 / 7 平成20年度中野区当初予算プレス発表について

○事務局報告事項

- 1 平成19年度インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について

(学校教育担当)

午前10時01分開会

山田委員長

皆さん、おはようございます。

ただいまから教育委員会第5回協議会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席です。

初めに、委員長、委員報告からお願いいたします。

<委員長、委員報告事項>

山田委員長

では、私のほうからご報告させていただきます。

2月1日の金曜日、先週の金曜日でございますけれども、教育委員会終了後、北中野中学校の研究発表がありましたので、出席をしてまいりました。北中野中学では、東京都の「理科大好きモデル地域事業」ということを17年、18年、19年と行っておりまして、独立行政法人の科学技術振興機構「理数大好きモデル地域事業」との連携をとっての、理数大好きな児童・生徒を育てるということを展開しておりまして、今年度が最終の報告ということでございました。

当日は2年生が化学の実験を行って、その授業を見てまいりました。ドライアイスを使って、その中にマグネシウムを入れて着火するというような実験でございましたけれども、非常に準備が大変だった実験ではないかなと思いますし、それから、研究発表という場でしたので、時間的にちょっと短かったのかなと。といいますのは、実験をしながら、その後での化学反応式などの説明をする時間が余りとれなかったように思います。それは、実験の器材にいろいろ時間がかかったり、理科の実験の難しさを見てきて実感したわけでございます。最近、基本的にマッチをするということもやっていない子どもたちを見て、学

校ではマッチをすることから指導するといいますか、そこから始めて、ガスバーナーの使い方は少しずつやっているのだと思うのですけれども、そういったことも、現場を見ますとなかなか難しいものがあるのだなと。あと、バーナーをつけていて、そのバーナーがまだついていることを忘れてしまうので、やけどの危険もあるということ。ちょうどこのときには先生はTTということでお2人やっていらっしゃったのですけれども、実験をする場合には、そういった子どもたちの現状を踏まえると、十分な人員体制を整えてということと、準備と後片づけということがあるので、そういったことでは理科というのは大変な教科であると。でも、子どもたちの今の日本の現状からいうと、理数離れに対してこういった学校の取り組みに対して今後もきちんと応援していかなければいけないのではないかと。昨年度は、この科学技術振興機構のほうとの連携をとられた授業が展開されましたけれども、今年度最終については理科の実験を行っております。

2月2日は、私が所属しています東京都医師会の学校医の研修会で、2月は毎年のように地区医師会からの研究発表の場がありまして、そういった学校医の研修会でございますが、私のほうで、中野区として、この春にはやりましたはしかの流行に対して中野区はどのように対応したか、特に学校医、もしくは学校との連携を通じてということで、15分ほどの発表をまいりました。

ご承知のとおり、今年度のはしかにつきましては、東京、神奈川などで多く発症したということと、多くは18歳以上の大学生だったわけでございますけれども、その根底には、麻疹というもののワクチンの接種がまだ未接種であったり、1回接種でうまく免疫がつかなかったというケースで発症したケースが多かったのですけれども、中野区でも3月から7月までの間に医師会で把握した数は146名に上ります。そのうち、小学生・中学生は三十余名という数でございましたけれども、中野区では、国立感染症研究所に指導していただきました「麻疹が発症したときの対応マニュアル」というのがありまして、それに基づいて学校の中で対応してまいりました。はしかの子どもが1人でも出た場合には、学校において、学校並びに学校医、それから保健所の先生、教育委員会、この4者が集まりまして麻疹対策会議というのを開く。麻疹の感染予防のための会を開くということが行われまして、中野区は34件の麻疹対策会議が開かれております。これは、ほかの区ではそこまで、4者が集まっての会議が開かれたことはないということでございます。ということで、麻疹についてはきちんとした対応ができました。

残念ながら、中野区内の小中学校で1校が全校休校に陥ってしまいましたけれども、この

件につきましても十分な対応ができて、その後の2次感染、3次感染の予防ができたということでもあります。この4月からは麻疹を排除する——「イリミネーション」といいますけれども、撲滅ではないですね、排除しようということで、国のほうで計画が定められています。麻疹のワクチンは一生涯の間に2回接種が行われるのですが、それを5年間の間で95%の接種率を誇ろうではないかということで計画をしております。実務的には、中学校1年生、高校3年生において接種を勧奨しましょうということでございますので、麻疹排除に向けてこれからも地域を挙げて、また学校との連携で、麻疹がこの日本から排除できるように頑張っていかなければいけないかなと思っています。

なお、麻疹が排除できている国は、アメリカ、カナダ、韓国など、先進国が多うございまして、日本はまだ年間で10万人近い人たちの罹患があるわけですから、麻疹については十分に注意していただきたい。

私のほうからは以上でございます。

高木委員

私も2月1日、北中野中学校の研究発表会に行ってきました。北中野中学校は、生徒数が512名、14クラスで、区内最大規模の学校でございます。今回の研究のテーマが「社会とのつながりを深める新しい理科・数学教育—理数の楽しさを地域に発信—」というテーマでございます。実験は、委員長から詳しい説明がありましたが、非常におもしろいですね。ドライアイスに穴をあけて、そこにマグネシウムの粉を入れて、ふたをして二酸化炭素が充満したところで火をつけて燃やす。そうすると、花火みたいな感じでドライアイスの中で燃えるのですね。燃え過ぎてしまった班もあったのですが、子どもたちの興味をすごくひいて、いい実験だったなと思います。

事前に、マグネシウムが二酸化炭素の中で燃えることによってどういう物質が生成されるのかというのを元素記号の勉強の中で推察をさせて、できた化合物を希釈を使って本当に推察どおりか試すという、考える力を伸ばす実験だったのですが、なかなか思ったようには子どもたちはついてこなくて、机の下のほうでこうやって教科書を見て、「こう、こう、こうなんだな」なんていうのが何人かいたかなと。それはそれでいいと思うのですね。理数離れということで、中学校に入ると、実験の楽しさではなくて、元素記号を「水兵リーベ」とか覚えるようなものだとだんだん嫌いになってしまうので。ただ、非常に手間がかかって大変だな、意欲的に取り組んでいるなという印象を受けました。

その後の研究発表会のほうは、この成果をパワーポイントを使って発表したのですが、

こちらのほうは参加者が 40 人ぐらいで少なかったので、ちょっと残念だったなと思います。先週の八中さんもちょっと少なかったのですが、小学校ですと、発表をやると P T A の方とかも熱心に聞きに来るようなのですが、中学校になってくると保護者の関心がだんだん薄れてしまうのはいたし方がないのかなと思うのですが、そこら辺も今後工夫が必要かなと思いました。

以上でございます。

飛鳥馬委員

私も、北中野中学校の同じことになりますが、今、高木委員が言われたように、中学校は教科別の担任ということもあって、学校全体で継続的に盛り上げるというところがちょっと課題のところがあるのですね。でも、そんな中で、北中野中の場合には、先生方が途中でいろいろかわられたりしていると思うのですけれども、3年間も継続して理科、数学に力を入れているという、本当に特色ある学校、伝統の学校というのができつつあるなと思うのです。やっている内容が、実験ももちろんあるのですけれども、去年、私が見せてもらったのは、専門家を招いての特別授業ですけれども、例えば理化学研究所の方とか、国立科学博物館であるとか、国立天文台の人とか、一流の方が来て非常にハイレベルの授業をやってくれるわけですね。それは、私は非常に大事なことだと思っているのです。子どもにはやはりいいものを見せたい、一流のものを見せたい。それをわかるように優しく説明してくれるのが専門家だろうというふうに思っておりますので、そうでない、ありきたりのことではなかなか子どもは興味がわからないのだらうなと思います。やはりそういう工夫ですね。そういうところから子どもたちは、「北中ノーベル賞」などという、個人個人が宿題でまとめてきたものやっておりますけれども、そういう日常の活動も続けていくことですね。

数学の場合にも、ストローで立体をつくるとか、折り紙で立体をつくるとか、なるべく数学に興味や関心が持てるように、「何だろう？」という疑問が持てるような工夫をして数学もやっているのですけれども、そういうことで、中学校ではなかなか取り組みにくいことをやっているなという気がしました。

結論としては、理数離れ、理科離れとよく言われるわけですがけれども、学校は忙しいのでなかなか暇がない。でも、そういう機会を設けると、子どもたちというのは結構興味を持って一生懸命やるのだなというのが感想です。

以上です。

大島委員

私は2月6日に第一中学校を訪問して、学校の様子を見せていただいていたまいりました。第一というので、一番最初に行かなければいけないなと思いながら、なかなか行く機会がなかったので、前から気になっていたのですけれども、渋谷区との境のほうにある、南のほうの中学校なのですけれども。それで、授業もを見せていただいて、校長先生と副校長先生からいろいろお話を伺ってきたのですけれども、とても楽しく、また興味深いお話を聞いてきました。

授業では、いろいろやっていましたけれども、今ちょっとお話に出た理科の実験でいえば、携帯カイロというのですか、ミニカイロの中身の発熱材をつくる実験をやっていました。材料を入れても思うように熱が上がらなかつたり、そんなのもありました。あと、この地域は、親が共働きの家庭が大変多いのだそうで、そういうところから、授業公開だとか、保護者会とか、そういう学校の行事を土曜日と日曜日というようなところに設定するという工夫をするようになったそうで、それによって親御さん、特にお父さんの参加がすごくふえたというようなお話でした。

あと、いじめとか、不登校の現状についても伺ってきました。やはり若干あるそうですが、いじめもなるべく早期に発見して対応するようにしていて、解決していない問題は今のところはないというようなお話でした。

あと、富士見中との統合が予定されておまして、校名も先日決まったわけですから、その関係のご苦労話とか伺ってきました。いい点としては、一中の校舎を今度使うということなものですから、改修工事をしていた関係で、職員室などもOA対応にしてもらったということです。だから、床が数センチ上がっているのですけれども、床下にケーブルなどを全部埋め込むようにしたので、床はすごくすっきりとして、これがよかったです。あと、新しい机なども入れてもらったということでした。改修工事が去年の夏休みもやり、ことしの夏休みもやりということで、副校長先生などはほとんど夏休みなしというようなことをおっしゃっていました。

制服も3パターン候補が決まって、そのどれにするか投票をしているところだというようなお話。

あと、プールの位置が問題だというお話があって、中学校の中に生涯学習施設があるのですけれども、プールがさらにその奥にあって、その施設の中に更衣室があるのだけれども、プールとの距離がすごく遠くて、ぼたぼたしずくをたらしながら更衣室まで帰ってく

るというような位置関係になっているので、プールを何とかしてほしいというお話があって、区長も見にいらしたそうです。物理的な制約もあるのでなかなか難しいでしょうけれども、そういうこともおっしゃっていました。富士見中との統合に向けて、今いろいろ頑張っていらっしゃるといようなお話を伺ってきました。

以上です。

<教育長報告事項>

教育長

私からは幾つかあります。

一つは、2月4日に文教委員会が開かれまして、さまざまな報告をさせていただきました。結局終わらないで、2月6日にも文教委員会。要するに2回開催されました。

報告内容ですが、まずは校内LANについて。これは現在の進捗状況であります。それから、学校統合委員会の検討状況について。これは先週報告した内容です。それから、法務省矯正研修所東京支所等の移転に伴う学校用地の活用について。これも先週報告した内容でありまして、野方小の隣接地の移転に伴う今後の状況について報告させていただきました。それから、4番目が区立学校の平成19年度卒業式・閉校式・20年度入学式の日程について。これも報告されております。それから、5番目が中野区の地域スポーツクラブ構想素案について。それから、6番目が鷲宮体育館工事に伴う施設の一部利用中止期間の延長について。7番目が川島商店街との共同事業の実施についてということです。

1日目で、最初の校内LANもかなり長く質問がありましたし、3番目の法務省矯正研修所東京支所等の移転に伴う学校用地の活用についても、さまざま質問がございまして、午前中だったものですから終わらなくて、残りにつきましては水曜日に行ったということでもあります。

それから、2番目ですが、2月4日ですけれども、健康危機管理図上訓練というのがありました。これは、新型インフルエンザが発生して、非常な勢いで患者がふえているという状況の中で、中野区はどのような対策をとるかということを図上訓練したわけですけれども、想定が物すごく、新型インフルエンザは、ご存じでしょうけれども、もし発生して、パンデミックとって、伝播力が非常に激しく、急激にふえてきたときには大変な状況になるということです。例えば1918年にはやったスペイン風邪では世界じゅうで2,000万人、日本でも39万人が死亡したという大変なことになるわけなのです。そういった想定のもとで、3日前に日本に新型インフルエンザが上陸して、3日間で非常な勢いでふえ

ているという状況のもとで、中野区においても患者数が1,000人とかそういう状況になってきたときどうするか。それぞれの部署に、例えば経営室関係でいえば、区役所をどうするのだとか、教育委員会には、学校を閉鎖してほしい、しばらく休校にしてほしいと。それも2カ月ぐらいいかがかと。そういうのをどうするか。そういうことをそれぞれに回答させるのです。そんなようなせっぱ詰まったようなお話でございまして、その場合にどうするか。それはそれで「休校します」というようなことで回答するのですが、その場合の問題点は何かという、本当に休校した場合、子どもたちの勉強をどうするのだとか、その辺につきましてもいろいろ検討することがあります。そんなことで、そういうことをやっておりますというご報告でございまして。

それから、2月5日、代表校長会がございました。代表校長会は毎月1回やっているのですが、今年度はさまざまな課題についてそれぞれ1回ごとに話し合っております。今後につきまして、来年につきましてもそのような形で、今、代表校長会のほうから投げかけたい課題についてまとめるから、来年もそれに沿って1回ごとにテーマを決めてやりましょうというような方向になっております。それから、代表校長会の中で、昨年いろいろ課題を決めてやったのですが、校外施設のあり方とか、魅力ある学校づくりなどにつきまして、教育委員会のほうで委員会をつくって校長も入れて検討してほしいというようなことになっておりまして、こういったことについてこれからどういう委員会をつくるかというようなお話し合いをする中で、委員会というのはいっぱいあるのですが、委嘱委員会というのがありまして、今ある委嘱委員会で見直せるもの、やめてもいいものとか統合していいもの、それから、さっき言った新しい課題についての委嘱委員会というものを立ち上げるとか、そんなような委嘱委員会の見直しなどにつきましても代表校長会の中でいろいろ話し合っております。

それから、2月6日ですけれども、東中野・中野昭和小学校の統合委員会の委員長及び役員の方がお見えになりまして報告がございました。これは、新しい統合校の名前、名称についてこうしたと。これは先週報告済みのこととありますけれども、白桜小学校ということで委員会としてはまとまったので尊重してほしいというようなお話でございました。

2月7日、昨日でありますけれども、20年度の予算のプレス発表がありました。これは、報道機関を集めまして、来年度の中野区の予算の内容について区長が発表したものですが、日刊紙が6社、日刊紙以外が5社、業界紙が5社、テレビ関係が2社ということで、合計18社が来て、いろいろ質問とかして行きました。内容につきましてはいろいろ

ありますが、全体といたしまして、教育委員会の関係だけちょっとお話しさせていただきます。

教育委員会の中でいろいろ新規事業等ございますけれども、特別支援学級、知的障害学級の開設、これを七中に整備するという内容。それから、地域スポーツクラブの設立支援業務委託ということで、地域スポーツクラブをつくるための支援の業務委託を行う。それから、学校サポートチーム。これは、学校におきます事故等の場合、校長OBとか、臨床心理士とかを派遣するというお金であります。それから、少人数指導の充実ということで、学力向上のために少人数指導の講師等を拡大する。それから、少人数指導の教室の冷房化というようなことについて予算をとっております。それから、桃花小学校の体育館をつくる関係で、桃丘小学校に特別支援学級、難聴・言語障害仮学級を移転する。それから、日本語適応事業の通訳派遣の増を図る。それから、体力向上プログラムのアシスタントを派遣する。それから、強化磁器食器につきまして導入校をふやす。それから、図書資料につきまして、開架図書更新率を10%までふやすということで、大幅な増を図ります。子どもの読書活動推進ということで、さまざまブックリストの作成でありますとか、校内LANにつきまして、来年度は、全小・中学校に教育用LANを構築する。初めは5年で入れようという計画だったのですけれども、一気に1年で入れてしまうことになりました。それから、小学校の統合・再編の関係の準備経費であります。さまざまございますけれども、中で、先ほど大島委員からございました第一中学校のプールにつきましても、改築工事の設計委託等を入れてございます。それから、第一中学校のフェンス、あるいは丸山・桃花・中野昭和・一中等のさまざまな教室等の整備。それから、新JISの机・いすの導入ということで、これが中学校5校に実施いたしまして、5年間で全部新JISにするという考えであります。校庭の緑化ですけれども、芝生化を5年間で全小・中学校に行うということで、来年度は小学校4校を予算化いたしました。

そんなようなことでプレス発表いたしましたけれども、きょうの新聞にも出ていますけれども、質問がございましたのは、学校サポートチームの派遣につきまして質問がございまして、今回の記事にもなっているということです。

私からは以上です。

<事務局報告事項>

山田委員長

続きまして、事務局からの報告をお願いいたします。

「平成 19 年度インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について」の報告をお願いします。

学校教育担当課長

それでは、私のほうから「平成 19 年度インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について」、報告いたします。お手元の資料をごらんください。

今年度のインフルエンザ様疾患による臨時休業、学級閉鎖といったようなことでございます。現在のところまで、その表にありますとおり、7校8学級が学級閉鎖等になりました。一番最初は11月24日の大和小ということでございます。一番近いところでは、1月31日、北原小ということで、現在学級閉鎖をしている学校はございません。

下のほうにカラー刷りでグラフがございしますが、「流行状況」ということで、赤いラインが今期ということですが、例年と比べますと、初発分というか、最初に出たのが今シーズンは早くて11月24日ですが、昨年は1月30日でしたので、2カ月ぐらい早かった。これは全国的にも早くなって、東京都では10月30日というのが一番最初だと聞いております。一時、12月中旬あたりにかけて非常にはやるのではないかと予想されたところなのですが、その後少しおさまっています。しかし、最近また少しはやり始めたというところがございます。例年、そのグラフに見られますように、2月、3月あたりが流行のピークということで警戒が必要かなと思います。

山田委員長

ご質問がありましたら、どうぞお願いします。

では、私から、ことしの12月の流行が例年と違って特異的であって、どうも暖かくてもはやるのではないかとということで、東南アジア型のインフルエンザが起きたのではないかと推測が出ていますね。東南アジアは常に暖かいわけですが、それでもインフルエンザが出るということで、冬だから出るということではないというふうに思います。非常に心配したのですが、12月の休みが入って一段落したのですが、例年と同じように、1月末から2月の頭がインフルエンザのピークになりますので、例年からいくと少し今のところまだ落ちついているかなという状況です。去年はちょっとおかしくて、春先に多くなったということがありまして、去年はちょっと非典型的だったのです。

医療現場から見ますと、インフルエンザについては、65歳以上の高齢者インフルエンザの公費負担が始まってから、国民全体でインフルエンザに対しての啓発がかなり行き届いたせいか、かなりワクチンを打つようになったということで、多くの企業でも企業負担で

打っている経過もあるので、大きな流行には至らないのではないかとこの予想です。

もう1点、治療薬でありますいわゆるタミフルの異常行動についてのモニターが今盛んにやられているわけですが、昨年の12月現在までのところでは、どうもタミフルを飲んだから異常行動が起きたという明らかな因果関係は余りはっきりしていないというのが現状です。実は去年の今ごろ、中学生が飛びおり自殺をしてしまったということがあって、たまたま24時間前にタミフルを服用したという経過があったようです。実際にその後、レトロスペクティブに見ているのですけれども、今のところ明らかな因果関係がないと言われておりますが、厚生省からは「10代の患者さんに対してはタミフルは使わないでください。」ということが今言われておまして、実際に私たちも、小学校の高学年から中学生ぐらいにインフルエンザが出た場合、非常に苦慮している状況であります。もう一つ、口から吸う薬でリレンザというタイプがあるので、そちらを使って対応しているケースが多いように思われています。ただ、今のところ、タミフルを使っての大きな事故は起きていないということでもあります。

もう1点、感染性のものについては、児童・生徒もなのですが、実は学校の職員の皆さん方もワクチンを打つなりして十分に予防していただきたいというのが私の願いです。といいますのは、中野区でも3人の教員がはしかを発症していますし、教員がもとで学級閉鎖になってしまったケースも、インフルエンザもはしかでも、はしかもはしかです。ですから、シーズン前には教員の皆さん方はぜひインフルエンザのワクチンを打っていただきたい。

それから、もし可能であれば、来年度から採用します教員に対しては、はしかの既往があるかどうか。なければ、きちんとワクチンを打つ。できればそれを公費で打てればいいのですけれども、打つということで予防していきませんと、学校全体で予防しないとなかなか難しいのかなど。はしかは、免疫のない100人の子どもたちを集めたときに、1人患者さんが入りますと、うつる確率は12名から18名です。インフルエンザは、同じような率でいきますと、3～7名であります。ですから、はしかが一たび発生しますと、学級閉鎖、学校閉鎖もやむを得ない状況になります。そうなりますと、1年間の指導計画そのものも変えなければいけないということがありますので、ぜひそういった感染症対策が必要ではないか。

おとといの新聞には、東大が未罹患・未接種の学生に対してはワクチンを無償で打ちますということで、今のところ1,000本ぐらいのワクチンが用意されたと聞いております。

大学も、去年度の休校騒ぎで多大な被害をこうむったわけですので、そういったことを行っているというニュースがありました。

済みません、コメントでございました。別に質問ではありません。

大島委員

よろしいですか。いただいた表の「流行状況」の見方をちょっと教えていただきたいのです。これは、東京都発行だということなので、東京都全体のということかと思うのですが、左のほうのが、10人、20人というふうな読み方でいいのでしょうか。

そうすると、去年からことしにかけてですと、12月に10人発生したというふうに読んでいいのかということ。そうすると、東京都全体で10人だけということだとすると、その上の中野区の中学校でも結構発生しているということ。その関係はどうなのかなというのがわからないのですが。

学校教育担当課長

山田委員長にも後ほど補足していただくかもしれないですけども、これは定点当たりということになっております。定点観測というのでしょうか、ここでは都内ですけども、ある医療機関をインフルエンザ定点というふうに指定しております、300カ所ぐらい。そこで定点当たり何人出るかということで、定点当たり10人を超えるとかなり発生、流行注意報というようなことが言われています。この定点当たりの人数でございますので、全体の数とは違います。

山田委員長

補足いたしますと、定点というものが決められておまして、この先生は、インフルエンザが出たら保健所を通じて報告しなければいけないという制度になっています。1医療機関当たり1日に対して1人出たら、それは1というカウントになります。1医療機関1日当たり10人発症したら、これはかなりの発生で、それが積み重なったの「(人/定点)」というのはそういう意味です。

実は、定点だけでやっていますとなかなか流行が読み取れないということがあって、はしかについては、この1月1日から全数報告にして、はしかを診たらすぐに保健所に届けなさいというふうに法改正になりました。去年度までは、はしかも同じように定点でしたが、それでは流行は読み取れないということもありまして、ことしからはしかは全数。インフルエンザについては、主に学校伝染については定点に指定してやっております。中野区でもたしか6医療機関が登録されています。

例年なのですけれども、このインフルエンザ様の疾患というのは中野区は北のほうに多いですね。南のほうは例年余り起きないのはなぜかなと思うのですけれども、そういう傾向にあります。別に北のほうの学校がということではなくて、統計上そういう傾向があるということです。

ほかにご質問はございませんか。

では、そのほかに報告事項はありませんか。

以上で、本日予定した議事は終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第5回協議会を閉じます。

午前10時41分閉会